

令和2年度 推薦入試試験問題（生活科学科 食物栄養専攻）

問1（20点）

【採点のポイント】

- ・計算式を示して正しく計算ができているか。

【解答例】

	計算式	答え
(1)	$38,524 \div 23,893$	1.6 倍
(2)	$10,253 \div 38,524 \times 100$	26.6 %

問2（40点）

【採点のポイント】

- ・図を読みとれているか。
- ・適切な数値を上げて指摘しているか。
- ・論理的な記述ができているか。

【解答例】

2008年と2018年の食料消費支出総額について、二人以上の世帯と単身世帯とを比較すると、単身世帯の方が15,000円程度高く、2018年では約1.6倍であった。特に差があった品目は、調理食品、飲料、外食で、二人以上の世帯より2～3倍と高かった。

また、食料消費支出総額の変化は、10年の間で二人以上の世帯でほとんど見られなかったのに対し、単身世帯では、約1割近い3,445円減っている。要因として、外食が4,454円減っていることにある。ただし、減ってきているとは言え、支出総額に占める外食の割合は、単身世帯では2018年で約27%を占めており、調理食品を合わせると43%と半分近くを占めていることがわかる。

(299字)

問3 (40点)

【採点のポイント】

- ・図を参照しているか。
- ・将来の具体的な食費の節約方法について述べているか。

【解答例】

図より単身世帯のほうが、二人以上の世帯よりも食費が割高になることがわかった。これまで家族と一緒に生活してきて、食費がどれだけかかるか気にしたことはなかったが、近い将来一人暮らしをするとしたら、食費をどのように抑えるかを考える必要がある。そのためには自炊を増やし、外食、調理食品の支出をできるだけ減らすことが必要であると考えます。自炊の際には、安価な旬の食材を購入し、このような食材を用いた料理方法や保存方法を知って、食材を無駄にせず使いきることであります。この努力を日頃行うことによって、食費は抑えることができる。これからは単に食事を作るだけでなく、できるだけ食費を考えながら作るようにしたいと思う。

(300字)